



インフルエンザウイルス不活化試験

CELA「セラ」のインフルエンザウイルス不活化が第三者機関において確認されています。

セラにインフルエンザウイルスA型(H1N1)を添加し5分作用後、ウイルス感染価を測定した結果、**99.8%不活化**したことを確認しました。

試験依頼先 財団法人日本食品分析センター
試験成績書発行年月日 2009年(平成21年)11月26日
試験成績書発行番号 第09010212001-1号

試験ウイルス	試験開始時 Log TCID50/ml	1分後 Log TCID50/ml	5分後 Log TCID50/ml	5分後不活化率 (当社作成)
インフルエンザウイルス (H1N1)	6.0	4.3	3.3	99.80%

TCID50: median tissue culture infectious dose, 50%組織培養感染率
表の数値は作用液1mlあたりのTCID50の対数値

通常のインフルエンザの主な感染経路は、飛沫感染と接触感染である。

- ・ 飛沫感染 : 感染した人の咳、くしゃみ、つばなどの飛沫とともに放出されたウイルスを健康な人が吸入することによって感染する。
- ・ 接触感染 : 感染した人がくしゃみや咳を手で抑えた後や、鼻水を手でぬぐった後に、机やドアノブ、スイッチなどに触れると、その触れた場所にウイルスが付着することがある。その付着したウイルスに健康な人が手で触れ、その手で目や鼻、口に再び触れることにより粘膜、結膜などを通してウイルスが体内に入り感染する。

厚生労働省「個人、家庭及び地域における新型インフルエンザ対策ガイドライン」より